

變遷と頓挫

于闐の漢族

現時の漢人

臣、概ね彼等より出でざるは無く、實に彼等は支那帝國の開化、文明の發達を振起したり。

支那帝國創肇以來、幾多の興亡變遷を経過し、終に宋末に至りて、蒙古の爲めに亡ぼされ、祖宗以來の政權は、全く他種族の手に落ちたり。然れども元來支那の開化文明は、一に彼等の力に依ると云ふも、決して溢美にあらざるべし。而も彼等の勢力は宋の滅亡と共に失墜し去れり。

新疆南北路に散布せる漢人種は、何處より移殖したるか。正當に考ふれば、早く開けし于闐より分布したる種族は、今日まで存在せざるべからざるの理なるも元と新疆の地たるや、印度及中央亞細亞に近接せる爲亞刺比亞の宗教軍に侵略せられ、次で匈奴、蒙古等に攻撃せられて爾來異種族の占居する所となり了りぬ。獨り于闐住民のみは、祖先の基礎の上に立て動かす。二十五年間(或曰く十年間)亞刺比亞軍に抗し互に勝敗ありしが、衆寡敵し難く、終に降服して改宗の已む無きに至りしものなりと云ふ。

天山北路、烏魯木齊以西は、舊と皆準噶爾の牧場にて、其の盛なるや、人口百數十萬